

【県外研修会参加費等助成事業 研修報告】

第14 回ビジネスライブラリアン講習会報告

鳥取県立図書館 中村 愛

日付：平成28年2月22日（月）～24日（水）

会場：塩尻市立図書館

2月下旬に開催された「ビジネスライブラリアン講習会」に参加した。本講習は、図書館でビジネス支援を行うにあたり求められる知識やサービス対応などのスキルアップ、そして自らの業務に対する意識改革を目的としている。

知識や技術の習得という点においては、マーケティング、アンケート票の作成法、専門図書館の活用と連携、レファレンスに有用な Web 情報およびデータベース、プレゼンテーションによる相手への説得、ビジネスターゲットの設定、予算の組み立て方・・・と、多角度からビジネス支援の基礎を学ぶことができた。ビジネス支援と聞くと“最新”の統計資料や経済動向について書かれた資料を多用するイメージがあったが（もちろんこれらも重要な情報源だが）、本講習で古くから保存されている地域資料にもビジネス展開の可能性が多くあるということに気づいた。実際これまでのケースとして、商品パッケージに地域ゆかりの絵画・書・歴史・伝説などを採用する、昔の地図や新聞を活用し街歩きイベントを実施する、といったものがある。意外と身近な“材料”を有効に提供できるよう、日々の業務を大切にしていこうと改めて思う。

意識改革の面では、図書館は「利用者とともに成長していく」ものであることを強く感じさせられた。「図書館の存続」にも関わるとまで言われた広報・PRの重要性や、資料相談では一緒に回答を探すといったことはよく指摘されることでもあるが、これらは利用者が何を必要としているのか・図書館および職員は何が必要とされているのかを考えるよいきっかけだと再認識した。利用者のニーズを待つだけでなく、図書館が持つ情報源がどれだけ使えるのか、私たち職員はどれだけサポートできるのかを説得する力も身につけていく必要がある。また公民連携の成功事例の代表ともいえる紫波町図書館や、今回の会場でもある塩尻市立図書館など他図書館の事例も多く知ることができ、利用者目線という意味においては真の「生きた図書館」を実感し大いに刺激を受けた。

この3日間を通して最も驚き、これまでの他研修ではあまり感じられなかったことに、「人脈作り」があった。受講者・講師・事務局スタッフの垣根を越え、名刺交換などを通じて一人一人と意見交換できるよい機会となり、自館の取り組みを紹介できたことはもちろん、参加者の熱意とパワーから逆に力をいただくことができた。しかし同時に、「鳥取県立図書館」のブランド力と重みを痛感することともなった。参加者からの、当館の取り組みを参考にしているといううれしい言葉が多かった反面、「鳥取県立で働く」ということはその看板と（ある意味）全国の期待を背負うことなのだと認識した。講習でのさまざまなアドバイスを生かし、これまでの職員が築き上げた実績を踏襲しつつも、世の中の流れと県民のニーズに対応した図書館づくりをしていけるよう、また私自身がそのような図書館の核となれるよう、今後も研さんを積み重ねていきたい。